〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:htt://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

5月号
第 60 巻　第 4 号
2015 年

無 料
Free

もくじ

今月の１枚 …… １ページ
・大人のための観察会 冬のライチョウを見に行こう！
さんぱく研究最前線　―北アルプスの自然と人 トピックス― …… ２ページ
・楽しく安全な登山への一歩《前編》
イベントのご案内 …… ３ページ
・シンポジウム「日本アルプスと氷河」
・「山の歴史ウォーキング　体感！ 山岳文化都市おおまち ―市街地編―」
博物館のひろば …… ４ページ
・講演会「冬のライチョウはどんな生活をしているの？」
・大町山岳文化研究会
・平成 26 年度常設展アンケート
お知らせ …… ４ページ

大人のための観察会 冬のライチョウを見に行こう！

ライチョウが生活している環境を実感

宮野　典夫

平成 27 年３月８日（日）、栂池自然園付近で、冬のライチョウ観察会を 25 人の参加者により行いました。この観察会は山岳博物館と山博友の会との共催による協働事業です。

講師の肴倉孝明さん（山岳環境研究所）から標高約 2,000 メートルの現地周辺の地形や樹木などの説明をいただき、この時期のライチョウの行動としては、ほとんど飛ぶことはなく、オオシラビソやダケカンバの芽などをついばんでいるか、休息していることが多いことを注視して観察するようアドバイスをいただきました。その後、約１時間全員で探したものの、ライチョウの姿を確認することはできませんでした。しかし、痕跡としては足跡、フンがありました。

ライチョウは国の天然記念物に指定されている鳥で、絶滅危惧ⅠＢ類にランクアップされました。環境省はこれを受けて保全に取り組むための計画を策定し、調査や研究を進める方針を示した一方、国民の理解と協力が大変重要であることから、ライチョウの現状及び課題、保全事業の内容やその必要性について広く普及啓発を行うとしています。

山岳博物館においても、ライチョウの観察会や学習会などを行ってきましたが、今回の観察会は現地でライチョウを学び、ライチョウの生活している環境を知っていただく良い機会となりました。

（市立大町山岳博物館 指導員）

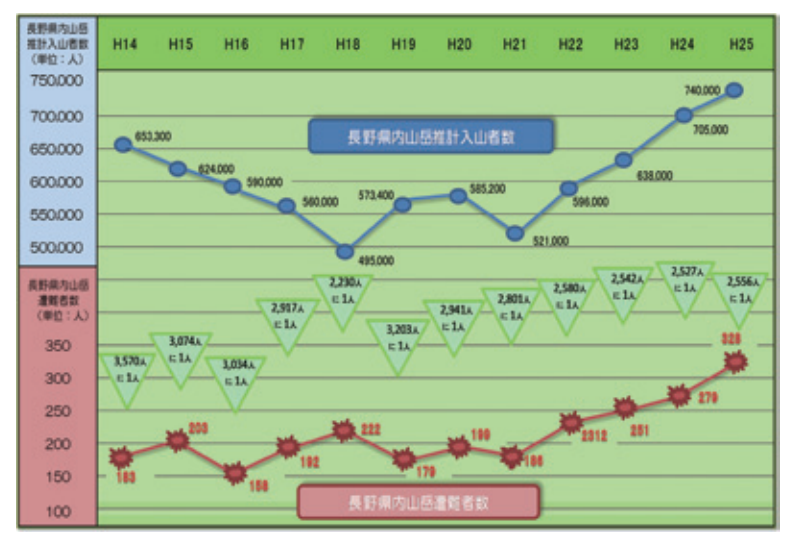
さんぱく研究最前線 ―北アルプスの自然と人　トピックス―

楽しく安全な登山への一歩 《前編》　西田　均

北アルプスをはじめ、山の美しさ雄大さは誰もが認めることでしょう。そんな山に出かけてみませんか？

このコーナーでは、「登山をしてみようかな」「何度か登ったことはあるけれど」と言った、初心者の方を対象に夏から秋に季節をしぼり登山の楽しみや山の危険、それを防ぐためのヒントを紹介しています。

「安全で楽しい登山を目指してみようかな？」という方へのお手伝いとなれば幸いです。



山っていいな！

里から見上げる北アルプスは、四季折々、時々刻々と姿を変え飽きることのない感動を与え続けてくれます。

さらに、山の中に入れば木々の緑や可憐な花々、川の流れ、そそり立つ峰々、平地にはない濃い青空、映像では伝わって来ない風や香りなど全身でその素晴らしさを感じ取ることが出来るでしょう。

頂上に立った時の満足感、下山した後の充足感。汗をかいても山の涼風はエアコンとは違った爽快さをもたらしてくれることでしょう。

苦労すればするほど、目的の達成感、満足感は高まります。自分の黙々とした歩みと、仲間とおしゃべりし励まし合いながら歩を進め、振り返れば自分自身の一歩一歩の積み重ねが、これほど遠くにまでと感動も覚えることでしょう。

加えて、山麓のグルメや温泉も疲れた身体には、うれしいご褒美です。

山って楽しみ方がいっぱい！

登山には「体を動かす」「お弁当をいただく」「景色を眺める」「向こうの山の名前を調べてみる」「動物と出会う」「草花を観察する」「写真を撮る」「スケッチをする」等々、身体的、精神的な楽しみや様々な知的好奇心をくすぐる楽しみ方があります。

山道具の手入れをしながら、山の写真集でもめくりながら、次回の登山に思いを馳せるのも楽しい時間になります。

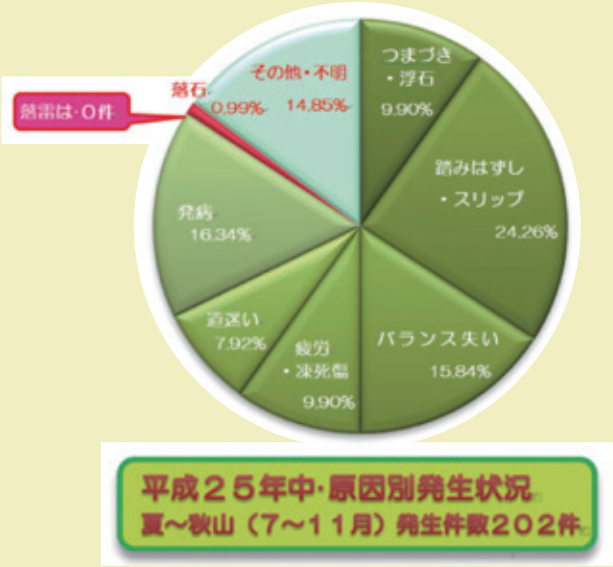
自分に合った楽しみ方を見つけ、山をエンジョイできたらもう虜になってしまうことでしょう。

山って危ない？

登山と遭難事故は切り離しては考えられません。転落、落石、雷、道迷い等々、クマやスズメバチ等も不安材料と思われます。

長野県内は北アルプスや南アルプス、八ヶ岳、中央アルプスなど有名山岳地帯が多くあることから入山者数も、また遭難事故件数も全国一となっています。

右上の表は長野県内の推計入山者数と遭難事故件数の推移です。その年の天候状況により入山者数や事故件数に変動はありますが、長野県内ではおおよそ 2,500 ～ 3,000 人に 1 人



くらいの割合で遭難事故が起きていると言えます。それらの事故内容の割合は、円グラフのとおりです。

防ぐことは出来なかったのでしょうか？

体力を含めてしっかりと準備をしておけば･･･という事故がほとんどです。つまり相当の確率で事故に遭わない登山が出来るはずなのです。

また、クマなど野生動物は鈴などで自分の存在を知らせ一定の距離を保つことで遭遇を防ぐ効果があります。

《次号へ続く》（市立大町山岳博物館 指導員）

【資料提供　長野県山岳遭難防止対策協会】

イベントのご案内

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第３日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。5 月は 16 日（土）と 17 日（日）です。

シンポジウム「日本アルプスと氷河」

鹿島槍ヶ岳カクネ里に、氷河は存在するのか！

現地調査を目前に大町市民をはじめ一般の方々に、北アルプスや氷河に関する理解を深めていただき、またカクネ里雪渓（氷河）調査の意義をお伝えします。

□主　催　大町市　大町市教育委員会
（主管：市立大町山岳博物館）
□後　援　信州大学山岳科学研究所
長野県環境保全研究所
富山県立山カルデラ砂防博物館
□日　時　平成 27 年５月 16 日（土）
午後１時～５時
□会　場　フレンド・プラザ大町
（大町市文化会館 南側隣接）
□申し込み・費用　申し込み不要・参加無料
□講演内容
・「日本アルプスの気象変動から見た氷河調査の魅力と意義」
鈴木啓助さん（信州大学学術研究院教授）
・「北アルプスの雪渓・氷河研究史と立山・剱岳の氷河の特徴」
飯田肇さん（立山カルデラ砂防博物館学芸課長）
・「立山・剱岳に現存する氷河確認調査」
福井幸太郎さん（立山カルデラ砂防博物館主任学芸員）
・「第四紀における北アルプスの大変動」
原山智さん（信州大学学術研究院教授）
・「氷期の遺存種、ライチョウの将来予測」
堀田昌伸さん（長野県環境保全研究所研究員）

「山の歴史ウォーキング　体感！山岳文化都市おおまち ―市街地編―」

大町市内にある北アルプスの山岳文化史ゆかりの各所を歩いて巡る催しです。今年度以降、シリーズとして複数回実施予定です。ふだん何気なく通っている場所にある山にまつわる地域の歴史を知る機会とし、「山岳文化都市」大町市を体感していただきます。

初回となる今回は、市街地から常盤地区まで往復約 10 ㎞のコースをフィールドにして、山岳にかかわる歴史・民俗をテーマにし、タウンウォッチングやフィールドワークの手法を用いながら、地域の山岳文化にふれることで、山岳文化都市・大町市の魅力を再発見する機会とします。

見どころとして、昭和初期に伝書鳩を利用した山岳通信の事業を展開した中部山岳鳩協会の建物跡や、明治初期に近代登山のさきがけとして白馬岳登山を実践した教育者・渡邊敏をたたえる石碑などを見学します。各ポイントでは学芸員が解説を行います。

□主　催　市立大町山岳博物館　大町山岳博物館友の会
□日　時　平成 27 年６月 20（土）
午前９時～午後３時　　※雨天実施
□対象・定員　小学生以上　20 人（先着順）
※小学３年生以下は保護者と一緒に参加してください。
□費　用　500 円（保険代）
※友の会会員は無料（友の会が参加費を負担します）
□持ち物　昼食、飲み物、雨具、筆記用具、そのほか各自必要なもの
□集　合　午前９時　信濃大町駅前広場
□解　散　午後３時　　同　上
□コース　信濃大町駅前集合・出発（徒歩）→百瀬慎太郎の歌碑→中部山岳鳩協会跡→對山館跡→槇有恒の再疎開先→仏崎観音寺（昼食）→渡邊敏の記恩碑→信濃大町駅前到着・解散
※下見の結果によっては、コースが多少変更になる場合があります。雨天時は、コース等が変更になる場合があります。
□申し込み　６月 12 日（金）までに電話・FAX または直接、当館へ

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の 65 歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
（入場の際、受付にてお名前等をご記入ください）

講演会「冬のライチョウはどんな生活をしているの？」

平成 27 年 2 月 22 日（日）実施

ライチョウが冬にどのような生活をしているのか知っていただき、ライチョウを取り巻く環境について考えていただく機会として講演会を開催し、40 人が参加しました。

冬、ライチョウはどこで生活しているか、白馬乗鞍岳をフィールドにしている山岳環境研究所の肴倉孝明さんは、雪の上に残されたライチョウの糞の数を数えました。冬のライチョウは雪にもぐり雪面に顔を出して休んだり、ねぐらにしたりします。そこには糞が残り、雪解けとともに表面に出てくるのです。その数から越冬地を割り出したのです。

大町山岳文化研究会

平成 27 年 3 月 25 日（水）実施

当館では「大町山岳文化研究会」を平成 20 年度に発足し、以降、北アルプスの山岳文化史にかかわる学習活動を行ってきましたが、26 年 3 月の展示改修のため、25 年度初めから、活動が一時休止していました。そうした中、年度末となってしまいましたが、26 年度の活動として 3 月に研究会を実施しました。当日の会議では、27 年度の活動計画などについて方向性を出しました。

また、26 年度から友の会サークルとして、会員のほとんどが重複した「山岳文化研究会」が発足しています。当館主催と友の会主催による研究グループが二重に存在する形となっている状況でしたが、27 年度以降は研究グループを友の会サークルに一本化し、今後の活動を実施していきます（名称は「山岳文化研究会」）。

なお、友の会会員以外の方でも希望者は活動に参加いただけますので、お気軽にお問い合わせください。

平成 26 年度常設展アンケート

平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月実施

平成 26 年 3 月の常設展リニューアルをきっかけに、26 年度の後期から常設展に関して来館者を対象にアンケート調査を実施しています。26 年度については、半年間の実施期間となり、年間を通じた調査結果ではありませんが、来館者や来館に至った情報源、当館の展示内容についての傾向をある程度把握することができました。

今後も引き続き館内でのアンケートを実施し、来館者の動向を把握したいと思います。アンケートの結果を参考にしながら、情報発信のあり方、現在の展示資料や展示情報の更新、次回の展示改修に向けた常設展の展示構成などを検討したいと考えます。

お知らせ

■付属園の臨時閉園について

現在、ライチョウ舎建設のため、付属園（動植物園）は臨時閉園しています。閉園期間は 6 月 19 日（金）までの予定です。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

■人事異動のお知らせ

平成 27 年 4 月 1 日付で、山岳博物館スタッフに次の異動がありました。

【館長】……鳥羽章人 (副館長兼課長補佐から昇格)
【副館長】…清水隆寿（主査・学芸員から昇格）
【学芸員】…佐藤　真（新規採用）
【嘱託職員・指導員】……宮野典夫（新規採用）
【臨時職員・動物飼育員】…内田木野実（新規採用）

なお、以下のスタッフは引き続きかわりありません。
【学芸員】…千葉悟志・関　悟志
【嘱託職員・専門員】…小坂共栄
【嘱託職員・指導員】…西田　均
【臨時職員・事務員】…北村洋子
【臨時職員・動物飼育員】…戸谷諭美・木戸きらら・遠藤モナミ

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
— 創立 1951 年 —

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:htt://www.omachi-sanpaku.com

5 月号
第 60 巻 第 4 号
2015 年

発行日　2015（平成 27）年 4 月 25 日

印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030　FAX.0261-23-2010